

17 未発表文献 (Minachon 文書) による パリ一般病院の誕生

清水陽人

サルペトリエール病院サン・ルイ礼拝堂中央祭壇は幾多の蠟燭が終日ともされ、その火は絶えず消えることがない。筆者はそこに隣接するサクリスティ(聖具室)発行の同病院沿革についての草稿を一九八四年「日仏医学」(第一七巻一号)に発表した。しかし内容はサルペトリエール一般病院創設の過程については総論的事実に終始したと判断している。これに関し筆者はパリ一般病院設立前の貧民大事務局 (GRAND BUREAU DES PAUVRES 1532-1612) を祖とする現在のパリ市民生事業中央管理事務所 (ADMINISTRATION GÉNÉRALE DE L'ASSISTANCE PUBLIQUE À PARIS) からの文献を入手し、その調査を行った。これは民生事業関係資料文書館に未発表のまま長らく保管されていた Mina-

chon 文書と称するもので、一八四〇年当時、民生事業の文書係 Minachon が訴訟事件や所有地に関する自分の仕事の関係から、植物園のすぐ近くに位置している旧ピティエの一般病院創設、特にサルペトリエール創設に関する初期の審議議決を複写したことに始まる。一六五六年九月十一日、一六五六年九月二十七日の議決だった。さらに Minachon がサルペトリエール礼拝堂に関する特別文書の中から最も意義深いとしている引用文等である。

Minachon の生涯はナポレオン三世の第二帝政の間、驚きもなく輝きもなく続いたが、一八五三年在庫元帳の事務長、次いで出納監査役となって一八七〇年六五歳で死亡した。これに先立ち民生事業関係資料文書館には一般病院の文献が三〇〇あったといわれたが、一八七〇年普仏戦争が勃発、同文書館は文献の保護に奔走し、一部は地下室に一部は特別区画の本棚に一部は屋根裏部屋に別に十二の大ケースに入った文献が地下道の最も日当りのよくない場所に隠された。そして一八七一年六月一日パリ・コミューン時の大破壊により、無傷の十二の大ケ

ースを除いてすべてが灰と化し消滅してしまった。これは一六七七年から一六八七年までのサルペトリエールの審議議決についての特別報告であった。

以上から Minachon 文書の方の一六五六年九月十一日、一六五六年九月二十七日の内容について述べるが、これより以前、一五三二年から一六一二年の間に一般病院創設の前兆となった貧民大事務局時代がある。一つはフランソワ一世のもとに創設されたもので、パリ市長や市参事官によって任命された十二名の委員そして市当局、司祭、有力者によって選ばれた高等法院評定官三十六名の役員から編成されていた。これは一六五六年一般病院設立まで乞食に対する戦いの主要な機関だった。もう一つはアンリ四世の死後一六一〇年摂政となったマリイ・ド・メデイツスの設立したピティエ病院である。この設立は二つの側面があり一つは信心による貧民救済であり、もう一つはパリの通りから乞食を一掃する治安維持であった。その意図は貧民を病院に監禁して食物を与え仕付けることだった。しかしこの二つの事業はパリの数千人の乞食に食料の分配の場所あるいは子供や老人及

び逮捕された娼婦の宿泊の場所としてしか使われなかった。結局数年間続いて失敗に終わったのである。さてこの Minachon 文書には、パリ一般病院はなぜ創設されたのか、この貧民を監禁した巨大な施設は秩序維持の施設かそれとも慈善事業なのか、さらにこれは誰が創設したのか、ルイ十四世か、母后アンヌ・ドートリツシュカ、パリ高等法院か、聖職者サン・ヴァンサン・ド・ポールか、秘密結社サン・サクルマン会社か、リシュリユー枢機卿の姪デュギイヨン婦人か、国王顧問デュ・プレシイ・モンバールか、その他これにかかわった様な人物の役割とともに、一般病院創設の為に当時三〇万リーヴルという莫大な金が配分され、いかに納入されたのがはつきり記載されている。またその後サン・サクルマン会社の衰亡、それに関連した宰相コルベールの臣下ルイ・ベルエ等今回はその内容についてさらに掘りさげてみたい。

(新潟市)